

領域Ⅱ 男女双方の意識改革

1 性差に係る固定的な意識の解消

性別にかかわらず、自分らしく選択できていると感じている人は **59.9%**

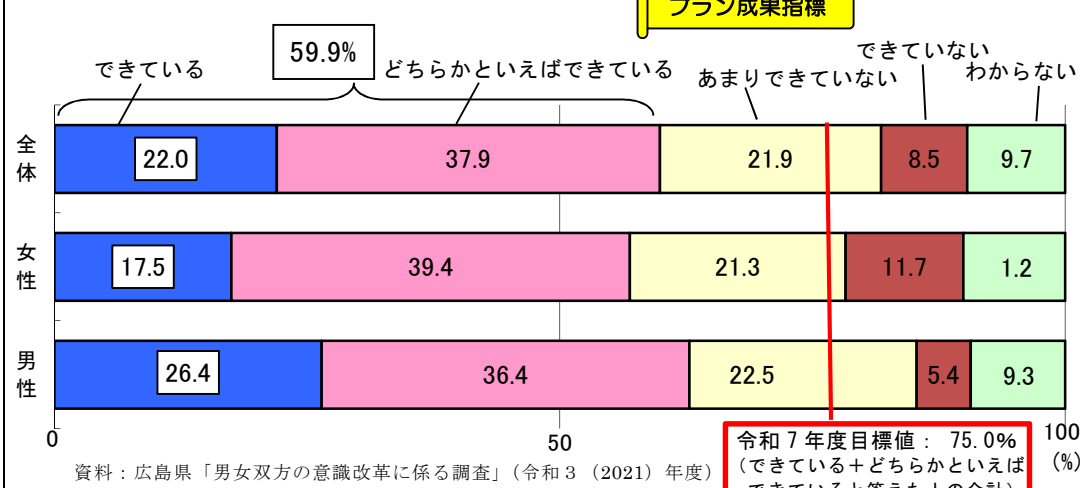
性別にかかわらず、働き方や暮らし方を自分らしく選択できていると感じている人は、全体で59.9%となっています。男女別にみると、女性（56.9%）より男性（62.8%）のほうが割合が高くなっています。

社会全体で「平等」と回答した人の割合は **女性 11.5%**
男性 18.2%

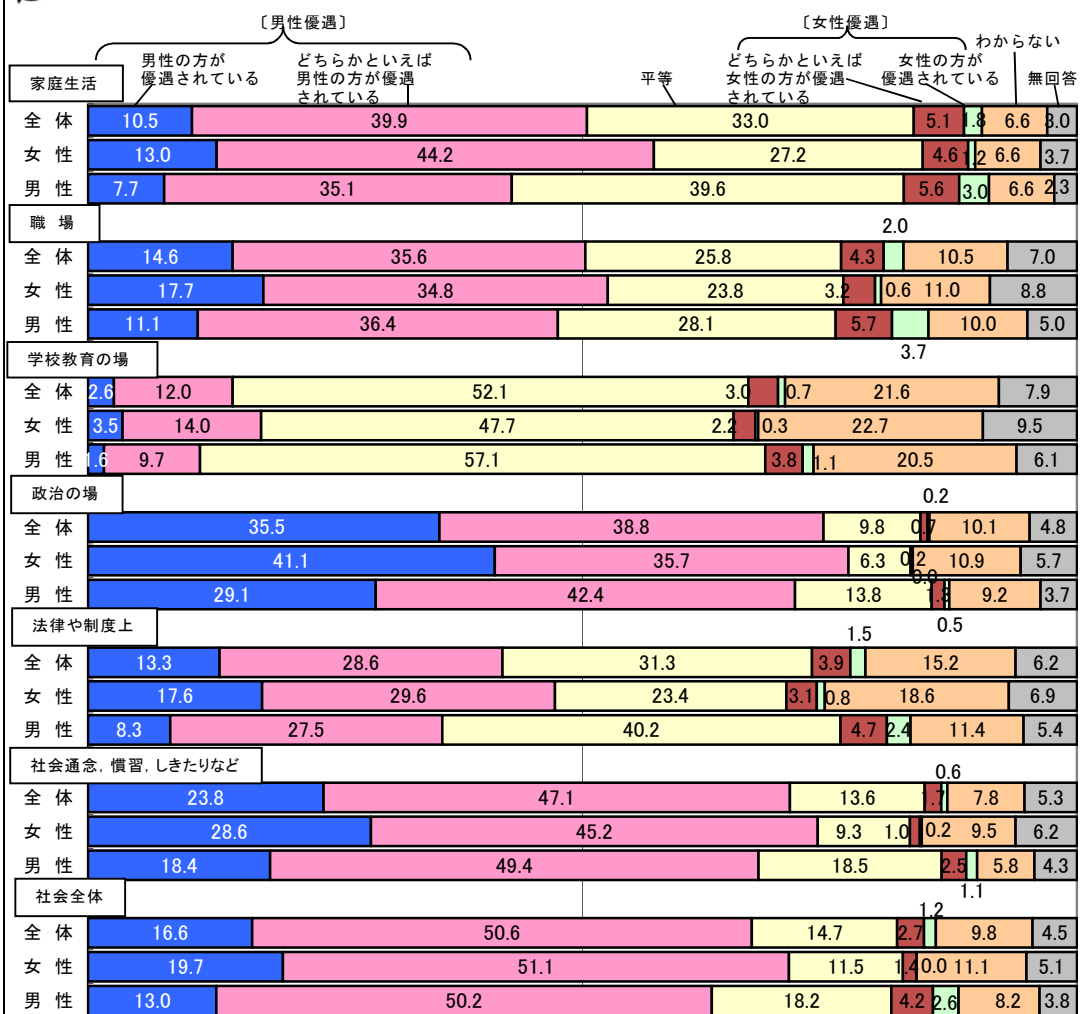
男女の地位の平等感について、前回調査(平成29(2017)年度)と比較すると、「平等」と回答した人の割合が最も増加した分野は、職場(4.6ポイント増)となっています。これは、女性活躍推進法や働き方改革関連法などの影響により、職場において女性が平等感を感じられる場面が増えたことも要因として考えられます。

また、社会全体において「平等」と回答した人の割合は10%台と、依然として低い状況にあり、性差に関する固定的な意識の解消に取り組む必要があります。

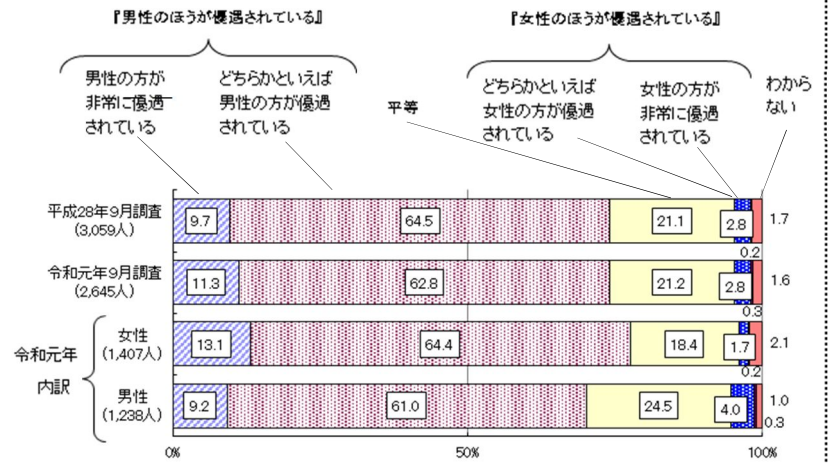
★36. 性別にかかわらず、働き方や暮らし方を自分らしく選択できていると感じている人の割合



37. 男女の地位の平等観



38.【参考】社会全体における男女の地位の平等感（全国）



資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元（2019）年度）

2 主体的に仕事やライフスタイルを選択する意識の醸成

「高校生のためのライフプランニング教育プログラム」等を実施している学校は **4校**

【高校生のためのライフプランニング教育プログラム】
 様々なライフイベントを踏まえた生活の中で、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら高校生が主体的に判断し、考え意思決定できる能力と態度を育成するプログラム。

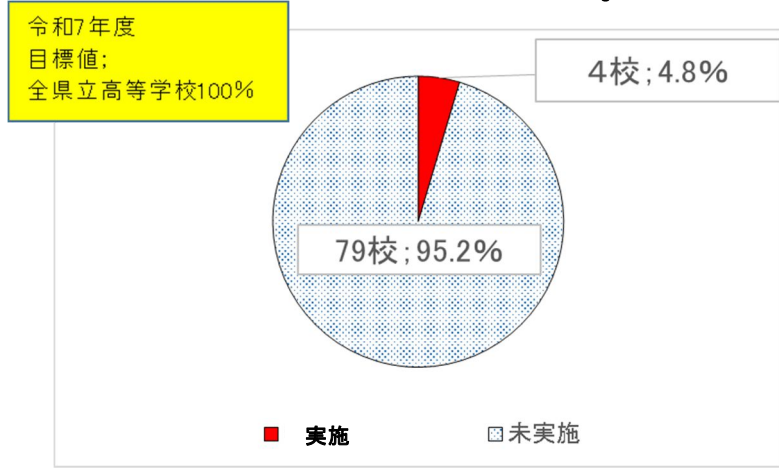
大学進学率は
女性 55.0%
男性 57.2%

女性の大学への進学率は上昇傾向であり、令和2（2020）年度は、女性55.0%、男性57.2%と、男性が2.2ポイント高くなっていますが、その差は年々小さくなっています。

短期大学への進学率は、女性が6.7%、男性が0.4%となっています。平成9（1997）年以降、短期大学数が減少していることもあり、短期大学への進学率は低下しています。

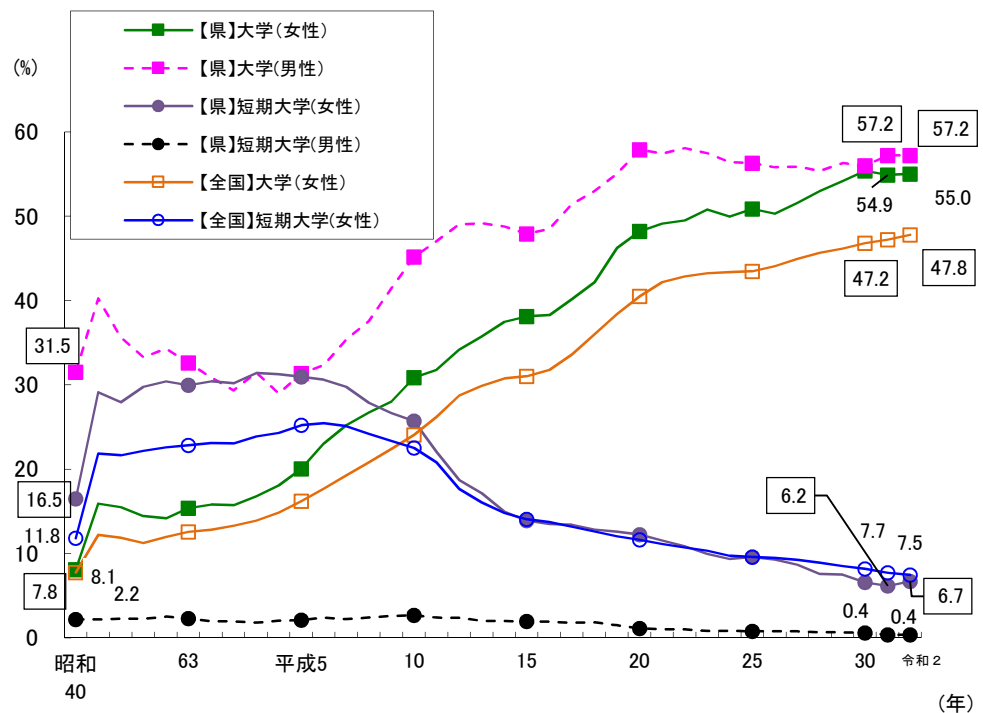
★39. 「高校生のためのライフプランニング教育プログラム」等を実施している学校数

プラン成果指標



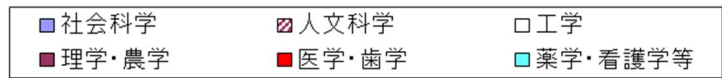
(注) 学校数は県立高校。(定時制・通信制・分校を含む)。
 資料：広島県教育委員会調べ（令和2（2020）年度）

🔄40. 男女別大学・短期大学進学率の推移（全国・県）

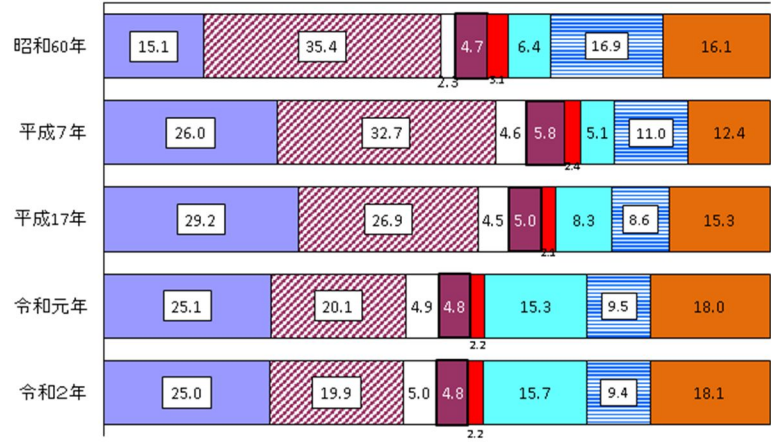


(注) 昭和60年以前の数値は通信過程を卒業した者を含まない。
 資料：文部科学省「学校基本調査」（令和2（2020）年度）

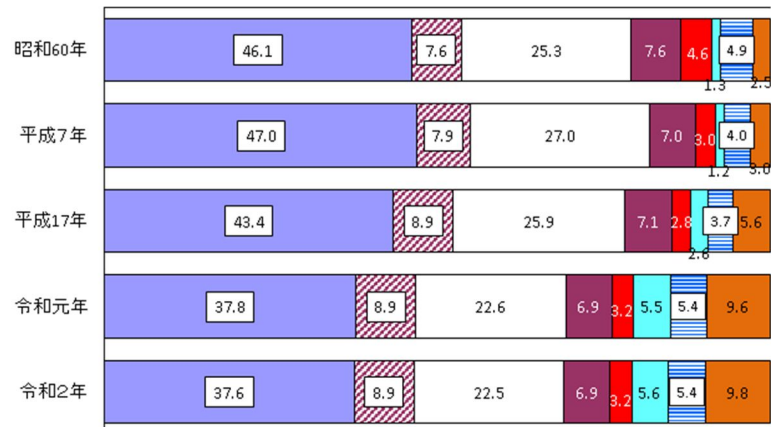
41.【参考】専攻分野別学生割合（大学（学部））の推移（全国）



【女性】 0% 20% 40% 60% 80% 100%



【男性】 0% 20% 40% 60% 80% 100%



(注) その他は「家政」「芸術」「商船」「その他」の合計
国立・公立・私立の全てを含む。

資料：文部科学省「学校基本調査」（令和2（2020）年度）